

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年6月12日 NO.24 (124)



モンシロチョウ (シロチョウ科)

花ちゃん 「あ！白いチョウがいる。」

オー君 「モンシロチョウだね。こいつは、あちこちによくいるやつだ。」

花ちゃん 「モンシロチョウか……。でも、ちょっとへんじゃない？」

オー君 「なにがへんなんだよ。花ちゃん。」

花ちゃん 「だって、もんって、漢字で『紋』(もん) のことですよ。つまり、紋とは、もようとか、マークとかのことですよ。このチョウは、紋が黒(くろ) いですよ。だから、モンクロチョウといったほうが正(ただ) しいかもね。」

オー君 「なるほど、モンシロチョウじゃなくて、モンクロチョウか……。おいら わかんなくなっちゃった。モンタ博士！どっちが正しいのですか。」

モンタ博士 「なるほど。おもしろいところに気がついたね。つまりね、もともとは、

黒い紋があるチョウなので、モンクロシロチョウといわれていたんだ。

でも、それだと、ややこしいので、省略（しょうりゃく）して、モンシロチョウということになったらしいよ。」

オー君 「それなら、モンクロチョウでもよかったのか。」

モンタ博士「そうすると、黒いチョウのようになってしまいうだろう。つまり、黒い紋のある白いチョウということなのさ。」

オー君 「そうか！モンキチョウというチョウもいるけど、それも、紋のある黄色いチョウという意味（いみ）なんですね。」

花ちゃん 「ところで、モンタ博士。チョウのきれいなもようや色はどうしてあるのかな。」

オー君 「おいら知（し）ってるよ。鱗粉（りんぷん）というものがあるからなんだ。その粉（こな）のようなものをとってしまくと、トンボやハチのような透明（とうめい）な羽（はね）になってしまうんだ。」

モンタ博士「そうだね。その鱗粉のおかげで、水をはじいたりして体を守（まも）れるのさ。」

花ちゃん 「なーるほど。そうですか。それじゃ、どうやって鱗粉はできるのですか。」

モンタ博士「その鱗粉は、さなぎの時に外（そと）に出すうんちやおしっこを再利用（さいりよう）して作られたものさ。ちょっと黄色っぽい色をしたチョウが多（おお）いのは、そのおしっこの中の尿酸（にょうさん）によるものなのさ。」

花ちゃん 「ちょっと難（むずか）しいお話（はなし）だけど、そういえば、モンシロチョウの羽の色もまっ白ではなくて、裏（うら）のほうは少し黄色みがあるわ。」

オー君 「なーるほど。ただのモンシロチョウだけど、いろいろ調（しら）べると、おもしろいんだね。」

モンタ博士「モンシロチョウによく似たスジグロシロチョウというやつもいるよ。どんなちがいがああるかな。」



スジグロシロチョウ（シロチョウ科）